

24時間安心のメール相談とLINEでの相談
小児科・産婦人科オンライン

登録・
利用料
無料



24時間
相談OK



詳しくは、
WEBへ



感染症対策をして、対談を行っています。



株式会社NTTドコモ
中国支社長 白川 貴久子 さん

市長 小野 申人

情報政策アドバイザー
國丸 昌之 さん

NPO法人 府中ノアンテナ
理事 小谷 直正 さん

府中市では昨年、10年後の将来を見据えた総合計画を新たに策定し、力強い産業が発展するまち、教育を含めて人・つながりが育つまち、活気・賑わいを生むまち、安心・安全が持続するまち、そして、ICT都市ふちゅうの実現という5つの基本目標を設定しました。

それぞれの目標も重要ですが、全てに掛かるキーワードとして、ICTを位置付けて推進していきます。その一歩として、府中市は、昨年11月にNTTドコモ中国支社と5G・ICTを利用した「ICT都市ふちゅう」の実現に向けた連携協定を結びました。

新春対談

府中市らしい「しあわせ実感！」を、 ICT・5Gで目指す

小野 皆さん明けまして、おめでとうございます。

一同 おめでとうございます。

小野 今年は、府中市が進めるICTの持つ可能性をテーマに、新春ですので、夢のような話や「将来こんなこともできたらいいね」というような、ワクワクするような話ができればと思っております。まずは、白川支社長から、ICTと、何かを掛け合わせる中で、ICTが持つ可能性や、今後の期待といった辺りを伺いたいと思います。

白川 まず昨年は新型コロナウイルスの影響ですね。直接会ったりする機会を減らすような状況の中で、テレワークが進んだように、「通信ネットワークを介してではできない」と言われていたことが、「ネットワークでもできるね」に変わってきました。また、これまでは、東京に情報が集まり、さまざまなが体験でき、全ては東京という感じでしたが、地方にしかない良さが、ネットワークを介して発信できるんだっていうこ

とが見えてきました。

小野 ICTはさらに加速度的に進んでいくので、行かなくても見れ、市がお伝えできる強みを活かすことを、今まで以上に取り入れていく必要がありますね。

白川 府中には多彩な産業分野が集積し、昔からの匠の技術もたくさんあるというのを聞いています。その技術やノウハウを、ICTやAI技術を使って、継承・保存していけるかもしれない。もっと踏み込んで、ICTによって、新しい自分たちが気付いてない技術と技術を組み合わせることで、もっとグローバルな可能性を広く開くことだってできるんじゃないかと思えます。例えば、子育て世代であれば、子どもの成長に合わせての悩みが出てくると思いますが、その点のケアにICTを活用していくといったこともできるかと思えます。

小野 子育てという点で、府中市では、妊娠期から出産、そして子育てまでを一連としてサポートするネットワークを、新たに府中天満屋2階にスタートさせます。昨年、コロナ流行期の中で、「小さい子どもを連れて小児科などに行くのは心配」という声もあり、いち早く小児科・産婦人科のオンライン相談がLINEでできたり、メールで24時間相談可能な環境を整えました。例えば、「子どもがぐずる」「ちよつと発疹が出た」などをすぐに相談でき、安心したと聞いています。これこそまさにICTの恩恵であって、引き続き行っていきたいと思いますし、皆さんには、どんどん活用してもらいたいと思います。

白川 まさにそうですね。さらに5Gでは、大容量データ通信によって、乳児健診自体をオンラインでやりたり、発疹の皮膚の鮮明画像をお医者さんに送ることで診断したり、救急時や大きい病院に行かなくても診療していただけるなど、今後に大きな期待が持てます。**小野** ぜひ期待しています。小谷さんは、全国各地を回られて、強みやポテンシャル

ルなど府中ものづくりをどうみられていますか。
小谷 一言で言うと、「ノリがよい」ですね。技術的なことは皆さん知っておられると思いますが、府中って、いろんなことに挑戦しているからこそ、これだけの企業が残っているのだと思っております。他の場所でものづくりには携わるデザイナーや、世界的に活躍するデザイナーたちを府中に連れてきたところ、やっぱり「ノリがいいね」と言われます。そこまで言わせるノリのよさは、何か新しい取り組みをしようと思ったら、近場の企業がすぐに集まって、「あーでもない。こーでもない」と始まって、あっという間に物が完成して、展示会まで出ちゃったりに連携し合うのいいところですね。あと、時代や状況によって業態を変化させていっています。一つの物にこだわるのも素晴らしいですが、技術があるから、今必要とされている物を作ろうっていうのも面白い